

## 八の至福—約束されている祝福

### 柔和な者の祝福

5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

### はじめに

山上の垂訓をともに学んでいますが、イエス様だけが、山上の垂訓の教えを完璧に実行できた人物です。これほどまでに自分を低くした人物は歴史上いませんし、これからも、イエス様のように謙遜になれる人はいません。先週は、イエス様が「悲しみの人」と呼ばれたこと、イエス様の美しさが、神のみこころにかなった悲しみの中に現されていたことをについて話しました。それは、イエス様自身の罪のためではなく、人類の罪のための悲しみでした。その私たちの罪を、イエス様は十字架上で自ら負われたのです。今日は八の至福の3つめである「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」についてお話します。5月17日に、イエス様の美しさの最初のメッセージをした時、謙遜と柔和がその人格の主な特徴だと話しました。少しだけ復習しますが、イエス様は自分の人格を説明する時にマタイ11:29でこう言われました。「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」また、父なる神様も預言者を通して同じように救い主となるイエス様の人格を説明して同じ二つの特徴を次の言葉で表現しました。

マタイ12:18-19 「争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。」

これらの聖書箇所によって聖書が使っている意味での柔和と謙遜が分かりますが、今日は特にイエス様のように柔和な人は神様に祝福されるという話について、さらに詳しくお話します。主イエスは、ご自身の地上の生涯でこの教えを実行されただけでなく、イエスを信じる一人一人の信者の人生をとおして、この教えを実現させることを望んでおられます。すべての信者を、謙遜と柔和に特徴づけられたイエス様の美しい似姿に変えたいと願っておられます。

第二テモテ2:24-25 「2:24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、2:25 反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせてくださるでしょう。」

ここでも、柔和の大切さが語られています。これは、救いの条件についてはありません。それはこれまでの2週間にすでにお話しました。つまり、神さまの前にへりくだって罪を悔い改めること、イエス様を救い主として受け入れることです。他に救いに必要な条件はありません。今日お話するのは、弟子として生きるための条件です。神に用いられるしもべとなる条件です。神が私たちのうちに、そして私たちをとおして働かれ、山上の垂訓に記された8つの祝福すべてが成就するためです。それは、私たちが神様を第一とし、神様の弟子となるときに実現します。「柔和な者は幸いです。」とありますが、「柔和な者」が受ける祝福とは何でしょう。また、聖書が語る

「柔和」とはどういうものでしょう。聖書の教える「柔和」と世間が考える「柔和」は違うからです。主イエスが示してくださった「柔和」、そして祝福を約束してくださった「柔和」とは何かを学びます。

### 1. マタイ5:5—聖書的な柔和。

「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」

人と争わないために、自分の権利を放棄する人です。

マタイの福音書12:19 「争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。」

これは明確に記されたイエス様の人格の主な特徴の一つです。主イエスは、自己弁護や正当化の必要性を感じられませんでした。それは、自らの正当性などすべてを父なる神様にゆだね切っていたからです。父なる神様はすべてを正しくさばかれるお方だからです。私たちにも同じことが言えます。イエス様の弟子としてイエス様ご自身の柔和さを実践するには、第一に私たちの権利をゆだねることです。自己弁護や自分を正当化する権利も放棄することもそこに含まれています。神さまにすべてをゆだね、神さまがご自身のときに責任をもって私たちの権利を守り、私たちの正当性を示してくださると信頼するのです。

先週にも言いましたが、イエス様の山上の垂訓の教えは人間の常識をくつがえします。今日の話も正にその通りで、未信者の目から見ても一番考えられないことだから、強い反感を起こす教えず。覚悟して下さい。信者の中でも、反感を起こすことがあります。

第1ペテロ2:23 「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」

一番不当な扱いを受けました。地上でただひとり、罪のないお方でした。それなのに、一番不当な逮捕と一番不当な拷問による取り調べ、一番不当な死刑判決を受け、もっとも残酷な公開処刑を受けました。それにも負けず、正しく裁かれる方にお任せになりました。つまり、自己弁護したり正当化したりする権利をすべて父なる神様にゆだねられたのです。自分を殺そうとする人々の為に赦す祈りが出来ました。そして父なる神様はちょうどよい時に、イエス様の正しさを証明しました。神様はイエス様を死者の中からよみがえらせて、目を開いて主を求める無数の人々に世界中で2000年に渡ってイエス様の正しさを証明しています。イエス様は、永遠に生きる栄光の救い主です。これをとおして、神様は私たちに「柔和」を実践する道を示しておられます。これは弱さではありません。イエス様は地上最強の人物です。たったひとりですべての苦しみを負い、それでも私たちのために勝利されました。ですから、イエス様が示される「柔和」は、弱さではなく、制御された強さと言えるでしょう。その秘訣は、自らの権利を手放し、神にゆだねることです。そして、自己弁護したり自分を正当化したりする必要性を感じない事です。自分の体験として証明する為に自分の権利を全て神様に委ねる必要があります。今日の箇所が一番難しいけれど、それに伴う祝福も素晴らしいです。

聖書の一番の注解書は聖書ですから、八の至福の意味はまず山上の垂訓の中で見て、解釈します。その次に聖書全体の中で同じ事について書かれている箇所を見て学ぶ事が大切です。

マタイ5:38-42—自分の権利を神様にゆだねる。

イエス様自身の柔和な人の説明は同じ5章に書いてあります。

5:38 『目には目で、歯には歯で。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

5:39 「しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。

5:40 あなたを告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。

5:41 あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。

5:42 求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。」

これは、聖書の教えの中でも論争を呼ぶ内容です。強い反感を起こす教えず。自分を守る権利を放棄するというのを文字通り受け取るべきではないだろうと思われれます。しかし、この個所に

違った解釈はできません。自分の権利を放棄した人物の描写であることは明らかです。こういう人は、イエス様のように、正しく裁かれるお方にすべてをゆだねているのです。

自分を守る権利は、世界中でももっとも基本的な人権です。先にも言いましたが、これは救いの条件ではありません。こうしなければならぬ、というものではありませんが、イエス様に用いられる弟子となるために必要なことです。これは非常に高レベルな基準ですが、弟子に向けて語られた言葉です。当然、信仰のない人には不可能な話ですが、山上の垂訓の話はすべてイエス様の信者の為に書いてあります。ノンクリスチャンには無理です。というのは、神様を知らなければ、権利をゆだねる相手もわからないからです。八の至福の最初と最後、「天の御国はその人たちのものだから。」と書いてあるから、神様の御国に所属している人の為に書いてあります。ここに書いてある神様のすべての祝福はイエス様を信じる全ての信者に与えられています。主イエスはさらに、「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」と言われます。これは義務ではなく、

争いを避ける為に、自分の権利をゆずる事が出来る人は柔和です。この世の常識では自分の権利の為に戦うのが当たり前です。それが恰好よくて強くて正しいと考えられており、そうする人は英雄とたたえられます。この世の価値観とイエス様の価値観は正反対です。イエス様の信者なら、当然イエス様の価値観に合わせて生きていきます。「この世と調子を合わせてはいけません。」と聖書に書いてあります。私達も信仰によって自分の権利を神様に委ねるなら、イエス様は私達を通して同じ柔和な美しい姿を表して下さいます。

もちろん、神様は私達の出来る分までしません。自分の権利を主張する必要がある時、自分でしなければなりません。喧嘩や争いにならない程度でしたら、神様はその上に働いて自分の出来ない分をして下さいます。人と争いになる場合は神様に委ねたら、神様は後の責任を取って下さいます。

創世記13:8-9. 「そこで、アブラムはロトに言った。「どうか私とあなたとの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちとの間に、争いがないようにしてくれ。私たちは、親類同士なのだから。13:9 全地はあなたの前にあるではないか。私から別れてくれないか。もしあなたが左に行けば、私は右に行こう。もしあなたが右に行けば、私は左に行こう。」

アブラムはロトの叔父だったので、先に選ぶ権利を持っていたのに、争いを避ける為にその権利をゆずってロトにどうぞお先に選んで下さいと言いました。そして、この話の結論は歴史的に有名な話になりました。ロトはソドムとゴモラを選びました。そこに神様の裁きがくだされた時、アブラムの執り成しによってロトとその家族はぎりぎり救われましたが、大変な損失を被りました。アブラムは増々神様に祝福されて守られました。

## 2. 神様はしんがりとなって下さる。

イザヤ52:12 「あなたがたは、あわてて出なくてもよい。逃げるようにして去らなくてもよい。主があなたがたの前に進み、イスラエルの神が、あなたがたのしんがりとなられるからだ。」  
この箇所は私にとって個人的に深い意味があります。手前の7節は日本に召されたみ言葉です。後ろからの攻撃を気にしなくても大丈夫です。

このイエス様の教えを実行したら、自分が無防備になってしまう恐れがあります。恐れはいつも間違っているから、それに従って行動を起こしてはいけません。このイエス様の教えでは、父なる神様の御心に従う為に自分の権利をゆずる人は守られるので、最終的に損する事はあり得ません。「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」人間の目は一部しか見えていないから、それが無防備とか損だと思いますが、聖書には、神様がその人の無防備なところを守って下さる箇所がたくさんあります。

出エジプト記14:19-21 「14:19 ついでイスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移って、彼らのあとを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移って、彼らのうしろに立ち、

14:20 エジプトの陣営とイスラエルの陣営との間にはいった。それは真暗な雲であったので、夜を迷い込ませ、一晩中、一方が他方に近づくことはなかった。

14:21 そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、主は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。」その話の流れとして説明しますが、イスラエル人達は神様に導かれて行き詰まりの逃げられない場所に来て、敵の軍隊は後ろから追いかけて来て皆を殺そうとしていました。神様は道のない所で道を開いて下さった。」

出エジプト記14:13. 「それでモーセは民に言った。『恐れてはいけません。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。』」

神様はわざと彼らをそこに導き、敵の軍隊が追いかけるようにされました。最初からすべてを支配している神様の主権と救いを彼らに見せる為に働いていました。今も神様の働き方の特徴は同じです。私達にもその主権と細かいところまで全てを支配して下さっている事を見せる為に困難の中を導いて下さいます。それは神様の自己満足の為ではなく、私達がどんな時でも恐れずに平安の中で信仰生活を歩む事が出来るようにそういう働き方をしています。

柔和な人の無防備なところを守る実例がもう一つあります。モーセは世界中で一番柔和な人と書いてある箇所を見て下さい。

民数記12:3. 「さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった。」この翻訳は謙遜となっていますが、他の翻訳は柔和と訳されています。原語のヘブライ語では同じ言葉です。前にも言いましたが、謙遜と柔和が聖書では切り離せないセットになっています。イエス様も唯一ご自分の人格を説明した時に、マタイ11:29で言われました。「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」

モーセが誰にも勝って地上で一番謙遜で柔和な人だったというのは、イエス様が生まれる前の話です。もちろん、イエス様程、謙遜で柔和な人は他に誰もいません。

その箇所の流れを言いますとモーセの姉ミリアムと兄アロンはモーセに対する批判を言い出しました。その時、モーセが自分で自分の立場を守ったり正当化したりする必要がないように、神様はミリアムに病気を与えてその批判を止めさせました。この出来事によっても、聖書の教えている柔和な人の主な特徴はイエス様のように、人と争わず、自分で自分自身を正当化せず、自分の権利をすべて父なる神様にお任せすることだとわかります。イエス様は最大の模範ですが、モーセも、アブラハムも、人と争いを避ける為に自分の権利を信仰によって委ねていました。

### 3. 神様の主権は保証

マタイ5:5 「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」

このイエス様の教えはすべての戦争や紛争に対する解決になります。これが実行されたなら、すべての戦争と紛争はすぐなくなります。前にも言いましたが、人類歴史上の全ての戦争や紛争は領土やそれと深く結ばれている人権の問題の為に起こっています。土地は資源だけではなくそれ以前の問題は土地のない人は人権の保証がなかったからです。イエス様は全ての主権を持っておられる神様なので、最終的に地の相続人を決めます。でも、この教えは個人的な神様との関係について言われているので、国家や民族に適用出来ないと思います。国家は当然自分の国民を守る義務があります。

5節後半「その人たちは地を受け継ぐから。」この地を相続するというのには深い意味があります。神様に自分の権利をすべて委ねる人が損する事はありません。神様が主権を持って日常生活の細部まですべてを支配しておられると見えるようになるなら、心配と恐れを越えて生きる事が出来るようになります。

山上の垂訓の教えの大きい部分は、6章全体1-34節までの主の祈りも含めた箇所です。祈り方について、そしてそれによって全てを神様に委ねるなら心配する必要はない、心配してはいけませんという命令になっています。特に、24-34節の部分は心配についてです。空の鳥と野原の花を見なさ

い、と言って、あなた方の父なる神様はそれらの細かいところまですべて支配しておられるから、あなたがたの事を当然守ってすべての必要を満たして下さい、と教えます。

マタイ**6:33-34**「**6:33** だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。**6:34** だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」

来週のメッセージは、**5:6**「義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」という箇所についてです。全ての必要を満たす神様について話したいと思います。イエス様の教え、特にそれを代表する山上の垂訓の教えと八の至福は全部深くつながっています。この順番は、適当でも偶然でもありません。神様は主権をもって全てを細かく支配しておられます。その主権を知っているなら、何も心配なく生きる事が出来ます。

### まとめ

イエス様はまた別の箇所で、鳥の話をしました。

マタイ**10:29-32**「**10:29**二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。

**10:30** また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。

**10:31** だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。

**10:32** ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。」

だから、人の前で私の信者だと恐れなくて告白してください。何も恐れる必要はありません。神様の主権はあなたの保証です。それによって損する事は絶対にありません。そして神様のすべての祝福を体験出来ます。